

AI時代の荒波に負けず、新たな時代を切り拓くAI活用委員会！

AI活用委員会 委員長

添田 雅人 氏

(所属：株式会社日立製作所)



interview

自己紹介

国内外での知財契約交渉、AI・データ戦略、新事業創生支援、組織再編の業務に従事。2020年から2026年3月までJIPAライセンス委員会に所属し（以前はフェアトレード委員会にも所属）、2026年4月より現職。

趣味は釣りです（いつかはマグロを釣ってみたい！）

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

AI活用委員会は、知財実務にAIを活用する際に直面する具体的な課題を整理し、その解決策を提案することを主要な研究テーマとしています。生成AIへの関心が高まる一方、情報漏えいリスク、生成物の信頼性、既存実務への組み込み方、権利の扱いなど、知財実務への活用ならではの悩みも少なくありません。そこで、知財担当者の視点からAI活用上の課題を明確化し、実務で安全かつ効果的にAIを活用するための考え方や指針を示すことを目的にテーマを設定しています。

Q 委員会の特長/魅力は？

AI活用委員会では、研究成果を即効性のある形で共有することを強く意識しています。研究成果は論説等の書き物で公表することにとどめず、すぐに試せる整理や具体例として適時の発信もしていきます。また、委員会活動を起点にコミュニティを立ち上げ、日常業務で使えるTipsや工夫を継続的に共有できる場を整えようとしていることも新たな取り組みです。メンバー同士が気軽に知見を持ち寄り、実践を加速させられる環境づくりを重視しています。

Q 委員会としてのこだわりは？

AI活用委員会は、2026年4月に設立されたばかりの委員会ですが、すでにいくつかの成果発表の企画も進んでおり、多数の成果が見込まれています。

AI活用委員会としてこだわっているのは、AIを「使うこと」自体を目的にしない姿勢です。

AIという「黒船」が現れ、知財実務の変革が迫られている昨今、知財実務の質や効率をどう高め、知財業界、ひいては産業をどう盛り上げていくのかという観点を常に起点とし、成功事例だけでなく、失敗事例やそこからの学びも含めて共有していきます。現場で再現可能な知見に落とし込むことを意識し、各会員が自組織で活かせる形で持ち帰れる成果を生み出すことを大切にしています。